

スクールミッションを常に意識・共有し 教員全員が関わる進路指導・キャリア教育

今号より、毎号1校ずつの高校にご登場いただき、進路指導の取り組みをご紹介していきます。

第1回目の今回は、多くの系列・コースを設置する総合学科の有田中央高校。

「地域を担う人材」を育成するための取り組みにご注目ください。

取材・文／永井ミカ

有田中央高校 (和歌山・県立)

■ 学校の特徴

入学時に福祉系列と総合系列に分かれ、総合系列はさらに2年次より家庭、普通、芸術、体育、情報、商業、農業の7系列11コースに分かれる。各系列・コースは、①専門職(職業人)の養成、②専門性を深めるための進学、③学びへの意欲向上を目指す。



校内カンパニーを作り地元企業に商品などを企画、提案。マンゴーアイスなどが商品化されている。

校長
河本好史先生(中央)
進路キャリア教育部 部長
櫻井卓馬先生(左)
生徒指導部 部長
竹中和史先生(右)



■ 進路キャリア教育部の目標(2015年度)

- 独り立ちの第一歩として進路実現100%を目指す進路指導の充実
- 出口指導ではなく、その先の未来を見据えたキャリア教育の充実

※目標達成計画などの詳細は [ダウンロード可](#)

■ 進路キャリア教育部の年間行事予定表(2015年度)

4月	7月	10月
学年縦割り企画	三者面談	進路模試
基礎力診断テスト	応募前職場見学	11月
SPI対策講座(2・3年生)	進路検討会	和歌山大学見学会
クレバリン対策講座	SPI対策講座⑤⑥	品評会文化祭
宿泊研修・先輩ゼミ(1年生)	進路デュアルシステム	系列学習発表
実力テスト(1年生)	履歴書指導	進路模試(2・3年生)
三者面談(3年生)	入退室練習・面接練習	系列選択締め切り
	8月	大学入試対策(1・2年生)
	三者面談(進路)	12月
5月	体験学習(系列発表)	生きる会
進路模試	選考会	1月
企業訪問	進路模試	学校説明会
県総合学科総会	応募前職場見学	進路報告
SPI対策講座①②	SPI対策講座⑦⑧	インターンシップ結団式
母校訪問	履歴書指導	インターンシップ
	入退室練習・面接練習	修学旅行
6月		
地域協育会総会	進路検討会	2月
先輩進路ゼミ	9月	生き方在り方ゼミ
進路説明会(保護者)	進路結団式	系列学習発表会
応募前サマーガイダンス	就職試験解禁	インターンシップ報告会
進路別LHR	進路模試(3年生)	一般出願
先輩進路ゼミ(卒業生)	応募書類発送(就職)	3月
進路希望調査(3年生)		進路デュアルシステム
系列学習発表(地協総会)		デュアルシステム修了式
SPI対策講座③④		

和歌山県立有田中央高校の前身は農業高校。1997年より総合学科に改編し、福祉系列と総合系列に分けて生徒募集をしている。卒業後地元に残る生徒が多く、同校で育てた人材がそのまま地域の人材となる。そこで「地域社会の中核を担う若者を育成する」というスクールミッションを打ち立てた。進路指導を担う分掌は進路キャリア教育部。1・2年次の指導と3年次の指導のつながりを強化する

ために設置された。そのなかで主に進学や就職指導を行う進路部門と、科目「産業社会と人間」や総合的な学習の時間を担当するキャリア教育部がある。役割を分けながらも、進路キャリア教育部内で横断的に業務に当たっている。進路キャリア教育部では、スクールのミッションを「独り立ち」(自立)「つながる」(協同)若者と定義し、あらゆる活動において、常に意識するよう心がけている。

School Data

1907年創立 / 総合学科
生徒数427人(男子221人・女子206人) / 進路状況(2015年3月実績) 大学進学3人、短大進学10人、専各進学36人、就職77人、その他1人

キャリア教育設計

多くの教員を巻き込む
ワーキンググループ方式

進路キャリア教育部では目標実現のために、いつ、何をすればよいかという逆算の発想で3年間のキャリア教育を計画的に実施している。

「独り立ち」し「つながる」ことができる若者に育てるため、つけるべき力としては、①3年間で何を学ぶかや、自身の将来設計について考えられる(深められる)力
②自身の課題(学力・コミュニケーション能力・規範・気持ちの強弱)を知り、課題克服に向けての展望を持つ力
③自己や他者への理解を深化させ、自己有用感を高める力
④様々な人との関わりを通じて働くことや地域に貢献する意義を見いだす力
⑤主体的に考え、行動する力

3年間のキャリア教育の流れ

1年次「産業社会と人間」	【1学期】	● 宿泊研修(2日)
		● オリエンテーション
		● 学校の仕組み(2回)
		● 各系列の説明(7回)
		● 自分を知る(4回)
		● 働く意義(3回)
		● 再度説明を聞きたい系列を選択・説明を受ける
	● 1学期のまとめ	
	【2学期】	● 系列選択指導(7回)
		● 進路に向けて(職業調べ)(3回)
		● インターンシップ準備(9回)
		● インターンシップ事前訪問指導(3回)
	【3学期】	● インターンシップ直前指導・結団式(3回)
		● インターンシップ(2日間)
		● 礼状作成(3回)
● グループ内発表(2回)		
2年次総合学習「セルフディスカバリー」	● クラス内発表(2回)	
	● お世話になったあの人へ・まとめ(2回)	
	● 自分を表現する(3回)	
	● 先輩進路ゼミ(5回)	
	● 母校訪問(4回)	
	● ソーシャルスキルトレーニング(6回)	
	● 先輩進路ゼミII(7回)	
	● 生き方在り方ゼミ(5回)	
	3年次総合学習「リンクアップゼミ」	● 人・社会とつながる(4回)
		● 社会人の心得(5回)
● 進路開拓のためのスキルトレーニング(6回)		
● 独り立ちのためのスキルトレーニング(7回)		
● まとめ(4回)		

という5つを設定した。

具体的には、1年次の「産業社会と人間」で、系列の説明を受けたり、授業体験などを通して、自身の展望や適性に合った系列を絞り込み、2年次以降自分が進んでいく道を見つけていく。また職業観の育成のためインターンシップを実施。特に卒業生が就業している企業などで実習することで、就業に対するリアリティを持たせることに重点を置いている。2年次では先輩や社会人と接することで人との関わり、自己有用感を高めていく。3年次ではさらに人や社会とつながり、進路を開拓、独り立ちの準備をしていく。

3年間の予定を実行に移す際、最初は担当者が穴埋め式の授業用ワークシートを作り担任に渡していた。しかしこれでは担任の先生が受け身になり、生徒に「思

い」が伝わらなかつたため方法を変えた。

まず進路キャリア教育部部長の櫻井卓馬先生が各単元の「ねらい」と「主な流れ」を記した「仕様書」ダウンロード可を作る。例えば、2年次の先輩進路ゼミの場合、「ねらい」↓ゼミを通して様々な人と関わり、社会での生き方を知り、自身の将来設計に活かす。主な流れ↓ゼミで卒業生から、実際に社会でどのような生き方をしているか話を聞く。話を受けて自分の将来設計について考え、まとめる」といった具合だ。

これを元にキャリア教育部門の各学年の担当者が、実際にはどのような指導をするかを考え「指導用資料」ダウンロード可を作成。最後に学年団の先生によるワーキンググループを結成し、そこで分担して授業案やワークシートを作成する。結果的に多くの先生が関わることになり、また担当分を計画・実施するためには前後の取り組みにも注目するため、理解度が高まり生徒に「思い」も伝わる。櫻井先生によると、「各学年の工夫が凝らされ、キャリア教育部で作成するより完成度が高いことも少なくない」そうだ。

対人能力育成
「つながる」若者を育成
少しずつ世界を広げ

中学校時代に不登校期間があるなど、同校にはコミュニケーションに不安を抱える生徒もいる。そこで他者とながれる生徒を育成するため、少しずつ世界を広

げる工夫をしている。

例えば、入学して最初のつながりは、同じ中学校出身の先輩との縦割り企画。入学して不安なことなどを気軽に話せる機会を作る。次は母校訪問で中学校の先生とつながる。その次は同じ中学校ではない先輩、そして2年生になったら卒業したばかりの先輩、さらに少し前に卒業した大学生や社会人、最終的には地域の大人たちと、スマートフォンを踏みながら、少しずつ外の世界を広げていくのだ。

そのほかにも、コミュニケーションを意識した取り組みには様々な工夫が。例えば、卒業生を囲んでのゼミでは、順調に成功した人8割、進路でつまづきを経験した



4月実施の「学年縦割り企画」。まずは出身中学が同じ先輩とグループになり、高校生活についての不安などを話せる機会を作る。





ポスターセッションの場合、壇上での発表と違い、全員が近い距離で来場者と接する機会を持つのがメリット。

地域連携

地域を担う人材を共に育てる地域協育会設立

がらも前向きに歩んでいる人2割に話をしてもらおう。これらどんな取り組みでも必ず振り返りや報告を行い、生徒に力が定着するようにしている。

11年6月、有田中央高校地域協育会が設立された。町長をトップとした組織で、生徒11地域の後継者をみんな育てようというねらいがある。品評会文化祭、インターシップ、生き方在り方ゼミ、ボランティア活動、デュアルシステムなどで学校に協力してくれるほか、地域と連携した様々な地域行事も開かれる。生徒が発表を行うときも、地域協育会をはじめ地域の大人が来校してくれる。品評会文化祭の系列学習発表会はボス

ターセッションだ。「ポスターセッションだと、1人では発表が難しい生徒も、ほかの生徒と一緒にいるので安心できます。また、聞いてくれる方を自分で呼び込んだり、質問に答えたりしなければならぬので、コミュニケーション力をつけるにはお勧めの方法」と櫻井先生。地域の人と話すことで、地域の人から見られている、期待されているという意識を育成し、生徒が変わるきっかけとしている。

進路指導

多様な進路に応える就職指導、進学指導

進路指導部門では、進路実現100%を目標に多様な希望に合わせてきめ細やかな指導を行っている。

就職では生徒一人ひとりを多角的な視点で見えていく進路検討会はもちろん、過去にどのような生徒が合格したか、離職率や離職理由などを調べた企業カルテデータロトキを作成。生徒とのマッチングを重視している。2週間の職業体験である進路デュアルシステムも、まだ数名程度であるが「働くことのイメージをつかみたい」という希望者を対象に実施。徐々に人数も増やし離職率低下につなげたい考えだ。進学では、中学時代に不登校などで学習が進まなかったものの、意欲があり保護者も望んでいる生徒に対して個別大学入試対策を実施。動画で学べる「スタディサプリ」なども使い、近年では見られなかった大学への進学などの実績も作った。ま



面接練習は5~6人で1組のグループになり、1人ずつ順番に面接を受ける役になる。残りは面接官として自分で考えた質問を投げかけ、気づいたことも相手に伝える。



た大学進学は望まないものの大幅に学習が遅れている生徒に対しては九九からやり直させるなど、実力に応じた学習指導で「やり直しができる」「チャレンジできる」という実感や自尊心を育てている。

個別の面接指導では逃げ出してしまいう生徒もいるために3年生全員参加のグループ面談を進学、就職問わず実施。1人の生徒が、面接官の役割をする複数の生徒と面談するスタイルで、生徒自身が質問項目も考えることから、どんな質問が想定できるか、どんな答えが望ましいかなどを考える機会になるという。

有田中央高校の進路指導のスタンス

毎日一つ改善し 生徒の成長を見守る

同校では多くの会議が校長室で行われ、分掌を超えて教員が集まる。なかでも「進路キャリア教育部と生徒指導部は両輪で動いていかなければならない分掌。進路実現を図っていくためには、生徒指導が鍵になります」と河本好史校長先生は言う。一人ひとりの生徒を育てるため、全教員と地域の大人が協力する。卒業前に3年生が自由発表する「生きる会」では、自分がこの学校で成長できた喜びや先生へ感謝の気持ちを語る生徒も。最近では「仕方なく行く高校」から「有田中央に行きたい」と前向きに入学する生徒も増えてきた。「毎日何か一つ改善するようにしています。それが生徒のプラス、地域のプラス、学校のプラスになるという、いいループで回ってくれんことを確信しています。それが仕事をすすらうえでのモチベーションになっています」(櫻井先生)